EBONY

生い立ち

2006年5月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

最近の記事

お人形ごっこ

畑

肩車

小川

雪だるま

目覚め

最近のコメント

最近のトラックバック

バックナンバー

2006年3月

2006年2月

カテゴリ

日記・エッセイ・コラム

このサイトと連携する (XML)

このブログをブログ人「ひと」リストに追加

2006/02/27

目覚め

座布団の上に寝ていた僕は、目覚めた、

明るい二軒長屋の部屋で。

そして、泣いた。

これが僕の始まり。

それは、今から55年前だろう。

とある田舎町の片隅、

その町には、大きな工場が2つ在った。

家のそばに、小さな小川が流れていた。

冬に、15センチ程の雪が降った。

大きな長靴を履いて庭に出た。

真っ白な雪がそこには、在った。

その子は、春を待つ、赤い下駄に赤いかごを持つ男の子だったという。

庭には、鶏小屋があった。鶏小屋に入って、卵を取った。

そして、出るときに、釘で、膝小僧をケガし、赤い血が流れた。

まだ、空を見たことがない小さな子であった。

投稿日 2006/02/27 日記・エッセイ・コラム | リンク用URL | コメント (0) | トラックバック (0)

2006/03/02

Blogzine ブログ人
OCN Powered by TypePad(TM)

雪だるま

それはそれは、大きな雪だるまでした。

自分の背より大きな真っ白な雪だるまがありました。

エボンニーは、しだいに大きくなる雪だるまを見ていました。

そして、自分でも、大きくなる方法が分かりました。

両手で、一生懸命押しましたが、雪だるまが動きません。

そこには、黒い土が付いていました。

まだ、雪だるまのお顔はありません。

しかし、その大きさを自慢したく、家の方に、かけていきました。

目の前の大きな大きな雪だるまは、畠で、顔を見せず笑っていました。

投稿日 2006/03/02 日記・エッセイ・コラム | リンク用URL | コメント (0) | トラックバック (0)

2006/03/09

小川

エボンニーが始めて渡った小川の橋。

それはそれは、遠くて近いところにありました。

よる台風が来て、エボンニーは、起こされました。

暗い夜、停電していました。懐中電灯の明かりを頼りに

小川の橋を渡りました。エボニーは、長靴を履いていました。

その橋を渡るのに2歩かかりました。

それは小さな小川でした。

家のそばの橋を渡ると、もう遠い遠い国でした。

真っ暗闇の国でした。

投稿日 2006/03/09 日記・エッセイ・コラム | リンク用URL | コメント (0) | トラックバック (0)

2006/03/12

肩車

暗い国を歩いたエボンニー、

1メートルぐらい地盤の高い工場の中に

避難した。

台風で、洪水になり、洪水が来る前に

家族で避難した。

どれぐらいたったか、大勢の人の中で、過ごした。

そして、おむすびのたくさん入った箱が運ばれてきた。

エボンニーは、うれしくなった。おにぎりだ。

朝か昼かは、分からない。

一つ、手を出し、おにぎりを取った。

食べたかどうかは、忘れてる。

それからそれから、

外を覗くと、水がいっぱい道路の上

ああ、赤い鯉が泳いでる道路の上

池があふれて、逃げ出したのだろう。

何日、避難していたか、わからない。

今は、お父さんの肩の上

肩車をしてもらって、おじいちゃんのおうちに

水のたまった、道路の上を行く

お父さんの手が、僕の手を握っている

湖の中にいるようだ。

でも安心。

それからそれから、

エボンニーは大きくなって

小さなアパートで、覚る君を肩車して遊んだ。

でも、エボンニーは、それを知らない。

投稿日 2006/03/12 日記・エッセイ・コラム | リンク用URL | コメント (0) | トラックバック (0)

2006/03/22

畑

エボンニーは、おじいちゃんの家から、

水につかった家に帰ってきた。

そして、見たものは、

材木が、入り乱れ、畑に山のように積まれた様子だった。

材木は、木の皮がまだ付いている丸木

何処から来たのか

それは、大きくなって知った。

それは、パルプ工場の材料の木だったのだ。

パルプ工場には、丸木が、きちんと、山のように積まれていた。

それが、洪水で、エボンニーの家の前の畑に流れ着いたのだ。

エボンニーの畑の思いは、目の前に、山と積まれた丸木の

茶色。

雪だるまの日も、茶色の畑。

大きくなるまで、エボンニーは、野菜を知らない。

投稿日 2006/03/22 日記・エッセイ・コラム | リンク用URL | コメント (0) | トラックバック (0)

2006/03/29

お人形ごっこ

エボンニーは、近くに、友達がありました。

みんなみんな女の友達でした。

小川を渡り、ハイカラな、お姉さんが居る家に行きました。

そして、何をして遊んだのでしょか。

エボンニーは知りません。

エボンニーの近所には、

男の子が居ませんでした。

それから、エボンニーは、

数字を書きました。

お母さんから、習ったのでしょう。

1, 2, 3, 。。。。

とうとう 100, 101まで書きました。

しかし、その次が、分かりません

100の次しか、エボンニーには、無いのです。

数の記憶のはじめです。

まだ、足し算は知りません。

1＋1は、いつ覚えたのか、

記憶にありません。

友達から、教わったかもしれません。

友達と、何をして遊んだのでしょうか。

お人形ごっこのように思えてきました。

投稿日 2006/03/29 日記・エッセイ・コラム | リンク用URL | コメント (0) | トラックバック (0)